

# 日本プロオーケストラファンクラブ協議会 (JOFC) 設立の経緯

全国のプロオーケストラファンクラブが手をつなぎ、音楽文化発展と「おらが町のオーケストラ」を守り発展させるため「日本プロオーケストラファンクラブ協議会」(JOFC)を結成すべく、札幌くらぶが発起人として、全国のオーケストラファンクラブへ呼びかけた結果、仙台フィルハーモニークラブ、山響ファンクラブ、群響を応援をする県民の会(群響ファンズ)、広響フレンズの4団体が呼掛けに応じ、2006(平成18)年11月札幌で会議を開催し設立を宣言しました。2007(平成19)年の仙台総会ではこの4団体に加えて名フィルファンクラブが文書により参加し、2008(平成20)年には、名フィルファンクラブと石川県立音楽堂「楽友会」が参加して7団体となり、更に日本プロオーケストラ連盟の協力と、アフィニス文化財団からの参加が得られ大きな広がりを見せました。オーケストラと定期会員のみならず市民が協働し参加することによってファンの底辺を拡大し、新しい支援と広がりを目指したいと考えています。

2002(平成14)年12月14日仙台フィルハーモニークラブ(SPC)の皆さんが来札。キタラの見学や、札幌の定期演奏会をキタラで聴いて頂き、終演後札幌くらぶ主催の歓迎交流会を開催。上田会長の歓迎の挨拶、尾高さんの乾杯、工藤SPC会長のご挨拶と続き、夜中の11時まで楽しいひと時を過ごす。

翌年2003(平成15)年10月18日、札幌くらぶがSPCを訪問。仙台フィル定期演奏会を聴いた後、団員さんもお参加いただき、交流会を開催。指揮者外山さんも駆けつけていただく。もっと嬉しいことに、山響ファンクラブ会長加藤さん以下3名が加わり、期せずして3ファンクラブが合同で楽しく集う。これがJOFC設立への足がかりになった出来事だった。

2005(平成17)年8月27日、次は山形でとの思いを強くし、山響定期演奏会で指揮した尾高さんと共に、3クラブ合同交流会実現の運びとなる。交流会の中、このように育んだ3

クラブの交流をどうして行くか、オーケストラ支援のために何が出来るか、こんな素朴な疑問を交し合った。全国の自発的なオーケストラファンクラブが手をつなぎ、より日本の音楽文化発展と「おらが町のオーケストラ」を守り発展させるために「日本プロオーケストラファンクラブ協議会」(JOFC)を結成しようという「山形宣言」を採択。

2006(平成18)年11月11日札幌にて、SPC、山響ファンクラブ、群響を応援をする県民の会、広響フレンズの4団体が札幌くらぶの呼掛けに応じ、5団体参加の下、JOFC設立会議を開催、目的や規約を採択した。

2007(平成19)年9月29日、仙台フィル第222回定期演奏会を聴き、第1回JOFC総会を開催。この総会では、各団体からの取り組み状況の報告があり、交流会が開催され、有意義な総会となった。この総会では資料提供のみでしたが、5団体の他名フィルファンクラブが文書による参加があり6団体となり、

着実に広がりを感じさせました。

2008(平成20)年11月23日には、第2回J  
OFC総会を山響ファンクラブの尽力により、  
山形で開催。6団体のうちに文書参加だった  
名フィルファンクラブが実質参加し、さらに  
石川県立音楽堂「楽友会」が新たに参加して  
7団体となり、更には日本オーケストラ連盟  
の協力と、アフィニス文化財団の参加が得ら  
れ大きな広がりを見た。

こんな素朴なつながりながら、おらが町の  
オーケストラを聴き、ファンクラブの施策展  
開の情報交換をし、市民との架け橋になっ  
ていく重要さが増してきたようだ。